

令和 6 年度 園評価書

園番号 28 園名 丸子こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
笑顔で明るい 元気な子	「見たがり」 「やりたがり」 「試したがり」 がいっぱい	子どもが「こうしてみよう」「こうなるとどうなるかな？」と思えるような環境構成を考えて保育している	担任間で日々の話し合いや遊び会議等で環境に対する意図や保育者の思い、子ども達の思いが共有されたことで、子ども達がやってみたくなる環境構成ができた。しかし、子どもの思いを待てずに保育者の思いが先行してしまうことがあり、主体性とは何かを考える機会が度々あった	A	A	・子どもの主体性を大事にしているという話を聞いて大変嬉しく感じた。小学校でも子ども達の「〇〇したい」という思いを大事にしているが、自分からと言うより待っている子が多い。園での様子を聞いていると小学校の子ども姿と重なる点が多かった ・職員一人一人が子どもの思いをうまく引き上げ、遊びにつなげてくれている。遊びの中で優しい気持ちが育っているのではないか ・全職員で子どもを見届けることの大変さもあるが、皆で子どもを支えていこうとしているのが良い	・今後も子どもの「今の姿」と捉え共有していくことで、先を見通した環境を準備していく。その際、保育者の思いが先行しすぎないように、園内研修等で主体性についても検討していく ・子どもと共に再構成を行うという意識をもち、具体例をあげながら、話し合いを進めていく ・学年によっては行事も多く、余裕をもって日々の遊びを楽しむことができなかったため、行事の持ち方や参加方法を見直していく ・今後も子どもの目線になって「楽しい」「おもしろい」の気持ちに共感していく。また、子どもの姿や保育観について職員同士が気軽に話せる場を設け、何気ない語り合いを大切にしていく
		子ども一人一人の気づき、発見を見逃すことなく見守ったり、関わったりしている	子どもと一緒に遊ぶことを第一に考え、子どもの目線になって子どもの声に耳を傾けたり、言葉、しぐさ、表情などから思いを読み取ったりすることで、子どもの思いに寄り添うことができた	B	B		
		子どもが何に気づき、何を楽しんでいるのか、保育を振り返り、日々の保育にいかしている	担任間での振り返りで子どもの姿や遊びを共有し、環境を見直したり構成したりするなど「こうしたらどうなるだろう？」という思いをもって保育することにつながった。また、フリーの職員とも子どもの姿を共有することができた	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	子どもの育ち、発達を捉えながら学年目標に向けて保育を行っている	公開保育を通して学年の育ちを捉えていき、一人一人の育ってほしい姿を見極め個々に合わせた保育が行われているが、学年目標が子どもの実態からすると少し高く感じる学年もあった	A	A	・自然体験から得られるものを取り入れている園の活動はとてありがたい ・安全教育やタブレットの付き合い方など、子ども達の将来を考えるとそれぞれの専門家の力を借りて指導していくのも良いのではないかと ・特別支援教育の専門性をどの職員も持つことは難しいだろう。育ちを共有していく程度でも良いのではないかと 思う。一人一人を丁寧に見てもらえたことを実感できた	子どもの実態や発達に合わせた学年目標となるよう再検討する
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	園生活の中で子ども一人ひとりが安心・安定した気持ちで過ごせるよう、思いを受けとめ、丁寧に関わっている	クラスの子だけでなく職員が連携して園全体で一人一人を丁寧に見守る体制を作り、安心して一日を過ごせるようにしたが、伝達ミスや伝え忘れ等があり、ヒヤリハット事案にもつながった	B	B		ミスの原因や改善策を自分事として捉えられるように職員全体で共有する
	(3)環境を通して行う教育及び保育	「もっとやってみたい」「試してみたい」と子どもが思った時にすぐに実現できるようにタイミングよく玩具や道具が準備されている	遊び出しの準備の重要性を再認識したり、幼児園庭には可動遊具がいつでも取り出せるように棚を作ったりした。配置場所や道具の数、種類を意識していくことで子ども達の「〇〇したい」がより実現しやすくなった	A	A		季節感が味わえる地域の自然や植物を提供できるように計画性をもって保育に取り入れる。また、子どもの遊びを捉え、次を予想した準備を行っている
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な場面を想定した訓練の様子を保護者に発信していくとともに、状況に応じた行動や連携がとれるようになる	毎月の訓練で反省、改善点を出し合い次月に活かすようにしていくことで、職員同士が声を出し合ったり役割分担をしたりすることが少しずつできてきている。また、ドキュメンテーションやお便りで保護者への発信もできた	B	B	・特別支援教育の専門性をどの職員も持つことは難しいだろう。育ちを共有していく程度でも良いのではないかと 思う。一人一人を丁寧に見てもらえたことを実感できた	クラスだけでなく、園全体に目を向け、一人一人が意識して声を出したり、行動に移したりする
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	個人差に考慮しながら、年齢に合った基本的生活習慣が身につくように援助する	子ども達一人一人の成長や発達を十分に理解しながら援助していった。子ども達の「自分で」という気持ちや意欲を大切にしていくことで、自分でやる経験を増やしていくことができている	A	A		教育課程を活用し、食育や養護、健康欄などを確認することで、年齢ことのポイントをおさえ、保育に活かすようにする
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の発達や個性を十分に把握・理解し、適切な支援を検討し、全職員で共通理解をしながら支援をしている	担当者の公開保育を行い、一人一人の発達、特性を把握しその子に合った支援の方法も検討できた。遊びの会の実施ではねらい、内容を検討し合い、意味のある会になるように努めた。また支援の必要な家庭のケース会議を定期的に行い、全職員で共通理解しながら、支援を継続した	B	A		公開保育や遊びの会の参観など、参加できる職員の人数を増やし、実践を通して共通理解を図っていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	各自が責任をもって分掌に取り組み全職員へ発信し、共有のもとに実施されている	例年のやり方にとらわれず工夫して進めることができた。また、会議では各分掌の取り組みを報告し合うことで、担当の分掌以外の取り組みも共有することができた。正規職員に役割が偏りがちになってしまった点が課題である	B	A	・ICT化は便利になった一方で、個人情報への扱いやホームページ作成など大変さもあると認識している	短い時間でも、分掌ごとの話し合いの機会を定期的に設け、それぞれに何ができるか意見を出し合い、実践する
6 研 修	(1)研修体制の充実	子どもの実態を捉え、重点目標に近づくように日々の手だてを行い、全職員で学びを共有する	公開保育の方法を変え、事後研修まで通して参加できることで、パート職員の学びが増え、保育実践に活かすことができた。公開保育での学びをそれぞれのクラス保育で実践し、エピソードに記入することで自分の保育を振り返ることができている。また、参加していない職員も動画を使いながら報告を受け共有することができている	A	A		全職員で学び合う体制を継続しながら、経験の少ない職員や短い時間のパート職員にも理解しやすく、日々実践しやすい手立てを検討する
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	ヒヤリハットを検証したり、点検を行ったりしながら、安全な園庭・室内環境をつくる	室内環境を担当以外の目で見合うことで安全面への意識が高まった。ヒヤリハットは会議等で報告しているが、気づいた時にお互いに声に出して伝え合える関係性が大事になってくる	B	B		職員一人一人が安全に対する意識を高く持ち、「危ない」「おかしい」と思った時に声に出して職員間で確認したり、共有したりすることを徹底する
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	各学年の遊びの様子や学びの姿をドキュメンテーションやボード、アプリ等でわかりやすく保護者に発信している	写真を活用し子ども達の育ち、遊びの様子や学びの姿、行事など保護者にわかりやすく伝えることを大切にしていた。幼児クラスのドキュメンテーション、乳児クラスの写真を添付した連絡ノートはコドモンの配信により保護者がいつでも見られるようになった	A	A	・ICT化は便利になった一方で、個人情報への扱いやホームページ作成など大変さもあると認識している	伝わりやすい方法、写真の選び方などを意識できるようにドキュメンテーション等、他学年のものを見合う機会を作っていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	公開保育・公開授業・研修を通して小学校や近隣園との連携を深める	近隣園との公開保育に参加し合ったり小学校との情報交換会に参加したりすることで情報を共有していった。長田地区の5歳児交流会を通してつながりが深まり、子ども達の就学への期待につながっている。小学校とのつながりを増やしたい	A	A		長田地区の子ども、職員同士の交流は今後も継続していくので、年長クラス担任だけでなく、職員全体でその意味や利点を意識していく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	子どもたちがいろいろな体験ができるように、職員が地域の良さや特徴を知り、地域の資源を積極的に保育に取り入れている	各クラスの散歩の機会を増やしたり、佐渡の触れ合いサロンに出かけたりして、地域に親しみを持てている。園内研修ではピオトープ作りに地域のものを取り入れたり、地域の自然を探しに出かけたり、保育者も地域を知る機会を作っていた	B	B		園外保育を計画的に行い、子ども自身が「地域を知る」「地域を好きになる」ために、職員自身が地域の資源について学び、保育に活かせるようにする